

# 麻 酔 科 学

M-03-14-L

オーガナイザー

麻酔科 川股 知之

## I 授業の目的

- (1) 生理学と薬理学を基盤に、手術に伴う外科的侵襲の制御と手術中の生体の恒常性維持の必要性およびその方法を理解する。
- (2) 麻酔管理を術前・術中・術後管理からなる周術期管理として理解する。
- (3) 手術を受ける患者の評価とそれを基盤とした麻酔計画を理解する。
- (4) 急性・慢性の痛みの機序と鎮痛法を理解する。

## II 到達目標

1. 術前麻酔管理として、術前評価、術前処置、麻酔前投薬を説明できる。
2. 吸入麻酔薬の薬理作用と薬物代謝および麻酔の実際を説明できる。
3. 静脈麻酔薬の薬物作用と薬物代謝および麻酔の実際を説明できる。
4. 筋弛緩薬とその拮抗薬の薬物作用と薬物代謝および麻酔の実際を説明できる。
5. 麻酔導入法と維持法について説明できる。
6. 気道確保法と呼吸モニターについて説明できる。
7. 外科手術および全身麻酔が呼吸生理に及ぼす影響を説明できる。
8. 麻酔中の人工呼吸管理法について説明できる。
9. 麻酔中における循環動態の変化を生理学的に説明できる。
10. 循環モニタリングについて理解し、生体情報の解析と管理について説明できる。
11. 手術中の輸液・輸血管理について説明できる。
12. 一般的な全身麻酔の合併症とその予防法について説明できる。
13. 局所麻酔薬の薬理作用と各種局所麻酔法について説明できる。
14. 脊髄くも膜下麻酔・硬膜外麻酔による呼吸・循環および代謝系に及ぼす影響について理解でき、利点・欠点について説明できる。
15. 各外科の手術に対する特殊麻酔法について説明できる。
16. 痛みの病態生理を理解し、ペインクリニック・緩和ケアにおける疼痛管理を説明できる。
17. 合併疾患の病態と麻酔の関連を理解し、適切な麻酔法の選択について説明できる。

## III 講義項目と担当者

1. 麻酔学 総論	麻酔科	川股
2. 特別講義（麻酔と痛みと神経科学）	麻酔科	川股
3. 吸入麻酔	麻酔科	時永
4. 静脈麻酔	麻酔科	時永
5. 局所麻酔と区域麻酔	麻酔科	山崎（亮）
6. 筋弛緩薬	麻酔科	川股
7. 麻酔と呼吸①	麻酔科	水本
8. 麻酔と呼吸②	麻酔科	水本
9. 循環・輸液・そのモニター①	麻酔科	藤井
10. 循環・輸液・そのモニター②	麻酔科	藤井
11. 術前評価と周術期管理	麻酔科	川股
12. 特殊な麻酔①（心臓外科・脳外科・呼吸器外科）	麻酔科	谷奥
13. 特殊な麻酔②（産科・小児科）	麻酔科	吉田（朱）
14. 麻酔科とサブスペシャリティ（ペインクリニック・緩和ケア）	麻酔科	栗山

## IV 評価法

期末試験点数と出席態度で評価する。

## V 推薦テキスト及び参考書

1. 標準麻酔科学	医学書院	本体	5,200 円
2. TEXT 麻酔・蘇生学	南山堂	本体	7,200 円



# 講義日程表

麻酔科学

No.	月日	曜日	時限	項目	担当科	担当
1	R5.1.17	(火)	1	総論	麻酔科	川股
2	R5.1.24	(火)	1	吸入麻酔	麻酔科	時永
3	R5.1.31	(火)	1	静脈麻酔	麻酔科	時永
4	R5.1.31	(火)	2	筋弛緩薬	麻酔科	川股
5	R5.1.31	(火)	3	区域麻酔と局所麻酔	麻酔科	山崎(亮)
6	R5.2.7	(火)	1	麻酔と呼吸①	麻酔科	水本
7	R5.2.7	(火)	2	麻酔と呼吸②	麻酔科	水本
8	R5.2.7	(火)	3	循環・輸液・そのモニター①	麻酔科	藤井
9	R5.2.14	(火)	1	循環・輸液・そのモニター②	麻酔科	藤井
10	R5.2.14	(火)	2	特殊な麻酔①(心臓外科・脳外科・呼吸器外科)	麻酔科	谷奥
11	R5.2.14	(火)	3	特殊な麻酔②(産科・小児科)	麻酔科	吉田(朱)
12	R5.2.21	(火)	1	術前評価と周術期管理	麻酔科	川股
13	R5.2.21	(火)	2	麻酔科とサブスペシャリティー(ペインクリニック・緩和ケア)	麻酔科	栗山
14	R5.2.21	(火)	3	特別講義(麻酔と痛みと神経科学)	麻酔科	川股